

エボラ出血熱

コンゴ民主共和国およびウガンダにおける流行について

☑エボラ出血熱とは？

- ・エボラ出血熱とは、エボラウイルスによる感染症です。出血症状を伴わないこともあるため、国際的にはエボラウイルス病とも呼ばれています。
- ・1976年に初めて確認されて以降、アフリカを中心に30回以上の流行が確認されています。日本において患者の報告はありません。

☑症状と感染経路・治療法

潜伏期間	2～21日（通常4～10日）
症状	突然の発熱、全身倦怠感、筋肉痛、頭痛、喉の痛みなどの症状に始まり、その後、嘔吐、下痢、発疹が現れます。更に症状が悪化すると出血や意識障害が現れます。
感染経路	感染した動物（コウモリ、霊長類など）や感染した人の体液等（血液、分泌物、嘔吐物・排泄物など）に、皮膚の細かな傷や、眼や口の粘膜などが接触するとウイルスが体内に入り感染します。症状がある患者の体液やそれに汚染された物品（シーツ、衣類、医療器具、患者が使用した生活用品など）に傷口や粘膜が触れても感染することがあります。
治療法	症状を軽くするための補液(点滴)と対症療法を行います。

☑コンゴ民主共和国およびウガンダでの流行

- ・世界保健機関（WHO）は、2026年5月17日（日本時間）、コンゴ民主共和国及びウガンダにおけるエボラ出血熱の発生状況が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当することを宣言しました。
- ・しかし、現在発生が確認されている地域は日本との直接往来は限定的なため、日本での発生や日本国内に感染が広がる可能性は低いと考えられています。



参考：厚生労働省検疫所 FORTHより

☑注意すること

- ・流行地域に立ち入らないことが重要です（※1）。
- ・流行地域では、野生動物や患者には触らないでください。
- ・流行地域では感染したコウモリとの接触を避けるため洞窟に入らないでください。
- ・2026年5月現在、コンゴ民主共和国・ウガンダに渡航又は滞在歴がある方は帰国時に検疫官に申し出ることであります（※2）。

お問い合わせは
お近くの保健所へ



（※1）今般、多数のエボラ出血熱感染者が確認されているコンゴ民主共和国イツリ州では、以前から外務省による「危険情報」のレベル4（退避してください。渡航は止めてください。）が発出されており、コンゴ民主共和国のその他の地域及び隣国のウガンダでも「危険情報」が設定されています。
参考：外務省海外安全ホームページ「コンゴ民主共和国 危険・スポット・広域情報」

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo_103.html#ad-image-0

（※2）参考：外務省海外安全ホームページ「エボラ出血熱に関する注意喚起」（「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」の宣言）
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcwideareaspecificinfo_2026C026.html